

上野の山で動物めぐり 10年のあしあと

上野の山でトラめぐり

見学
レポート
募集!

プレゼント付き!
「上野の山で、自分でトラめぐり」
どなたでも応募できます

→p.2～3へ

参加者
募集!

「上野の山でトラめぐり」
小学5年生～高校3年生

→p.4～5へ

これまでの「上野の山で動物めぐり」

ライオン、ゾウ、クマ、ツル、ネズミ、キリン、サル



上野動物園

国立科学博物館

東京国立博物館

2016年3月

国際博物館の日記念ツアー 「上野の山で動物めぐり」は 10周年を迎えました!

上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館では、毎年5月18日の「国際博物館の日」にちなんで、上野動物園の動物解説員、国立科学博物館の研究員、東京国立博物館の研究員という三つの施設をめぐり「上野の山で動物めぐり」をおこなっています。「上野の山で動物めぐり」は、一種類の動物をテーマとして、生きている動物、骨格標本の動物、絵や彫刻の動物をめぐること、多角的なものの見方を養い、それぞれの施設の役割についても知っていただくことを目的として、2007年から毎年開催しています。

2016年、「上野の山で動物めぐり」が10周年を迎えることを記念して、三つの施設をめぐり「上野の山でトラめぐり」をおこなうほか、記念リーフレット「10年のあしあと」を制作しました。「10年のあしあと」では今年のテーマのトラを中心に、これまでテーマになった動物たちを通した三施設めぐりの注目ポイントを紹介します。

三施設のオリジナルグッズのセットが当たる応募企画もありますので、ぜひ「10年のあしあと」を片手に、三つの施設をめぐってみましょう!

見学
レポート
募集!

「上野の山で、 自分でトラめぐり」

この「10年のあしあと」を片手に三施設のトラをめぐって、学んだことや発見したことを200字以上400字以内のレポートにまとめ、ご応募ください。入選された方には記念品として、三施設のオリジナルグッズを詰め合わせてプレゼントします!三施設のトラをテーマとした展示については、次のページをごらんください。

1 応募方法

- ◎年齢制限はありません。どなたでも応募できます。
- ◎三施設のトラをめぐって、学んだことや発見したことについて、200字以上400字以内の文章で書いてください。
- ◎三施設のトラ展示にあるキーワードパネルを見つけ、三つの文字を組み合わせてキーワードを完成させて下さい。
- ◎メール本文に、トラめぐりのレポート、氏名、年齢、住所、メールアドレス、電話番号、そして完成したキーワードをそえて、上野動物園教育普及係までメールでお送り下さい。
(上野動物園教育普及係:ueno-fukyu@tzps.or.jp)
- ◎応募期間:2016年4月12日(火)から5月31日(火)

2 入選作品について

- ◎ご応募いただいたレポートの中から20点程度を入選作品として選びます。入選作品については上野動物園のホームページなどで紹介させていただく予定です。

※個人情報につきましては本事業の参加者募集においてのみ使用し、終了後は速やかに破棄します。

※お問い合わせは上野動物園・教育普及課・教育普及係まで。

三施設のトラ展示はここ!

上野動物園

展示種:スマトラトラ(東園)

見どころ・観察のポイント:2016年3月現在、3頭を飼育していますが、日替わりで1頭ずつ展示しています。トラは本来、単独で生活する動物だからです。野生では、なわばりを定期的にパトロールし、自分の匂いをつけてまわります。動物園でもしばらく待てば、木や壁におしっこをスプレーしたり、地面に足をこすりつけたりする様子を見ることができます。(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:地球館3階 大地を駆ける生命

見どころ・鑑賞のポイント:地球館3階にベンガルトラというトラの一種が展示されています。トラといえば縞々があって美しい動物だね。地上では最強と言われるこの動物も、この縞々の毛皮を求めるヒトによって数が減らされた絶滅危惧種だ。縞々は草陰に身をひそめて獲物を待ち伏せるのには役に立つというけど、ヒトくらい目がいい動物にはかなわなかったようだね。(動物研究部 研究主幹 川田伸一郎)



東京国立博物館

総合文化展:平成館1階

特集 親と子のギャラリー「あつまれ!トラのなかまたち」

2016年4月12日(火)~5月22日(日)

見どころ・鑑賞のポイント:トーハクにあつまれ!トラのなかまたちは、とてもユニークです。たとえば、トラのすんでいなかった日本では、だれも本物のトラを知らないで、毛皮や絵などを参考にトラの作品をつくりました。どこかネコのように愛らしい「虎図」も登場します。しっぽまで表情豊かなトラたちに会いに来てください。(教育講座室)



「虎図」円山応挙筆 江戸時代・18世紀

参加者募集!

「上野の山で、トラめぐり」

- ① 日時 2016年5月15日(日) 9時~14時30分
- ② 会場 上野動物園→国立科学博物館→東京国立博物館の順に巡ります。
- ③ 対象 開催時に小学5年生以上で、高校3年生までの方 30名
- ④ 参加費 無料
- ⑤ 持ち物 筆記用具(鉛筆)・昼食・飲み物
- ⑥ スケジュール
 - 09:00 集合(上野動物園前)
 - 09:20 上野動物園「生きているトラの観察」
 - 10:40 国立科学博物館「骨格標本のトラを見学」
 - 11:40 昼食(国立科学博物館内)
 - 12:45 東京国立博物館「絵や彫刻のトラの見学」
 - 13:45 まとめ
 - 14:30 解散(東京国立博物館内)

(参考)上野ミュージアムウィークについて

5月18日は国際博物館の日です。この日は、博物館が社会に果たす役割について広くアピールするため、国際博物館会議(ICOM「イコム」)によって提唱され、1977年に設けられました。上野のさまざまな博物館・美術館などの文化施設は、国際博物館の日の前後を「上野ミュージアムウィーク」と定め、各施設が連携してさまざまなイベントを開催します。今年2016年のテーマは「ミュージアムと文化的景観(Museums and Cultural Landscapes)」です。

⑦ 申込方法

参加ご希望の方は、専用のウェブフォームに次の項目を記入してお送りください。

① 講座名「上野の山でトラめぐり」

② 参加希望者の氏名とフリガナ

※4名まで同時に申込できます。

※小学生のみの申し込みの場合は保護者1名の同伴が必要です(同伴できるのは1名のみです)。その場合、保護者の氏名・フリガナもお書きください。

③ 学年・年齢

※セミナー開催時の学年を書いてください

④ 郵便番号・住所

※当選の場合のみ郵送で通知します

⑤ 電話番号

※当日、連絡がとりやすい電話番号を記入してください

⑥ アンケート(講師が参考にさせていただくためのものです、当落には関係ございません)

※BとCは参加者ご自身のご意見を記入してください

A このツアーを何で知りましたか?

B 「トラ」について、どんなイメージをもっていますか(何を思いうかべますか)?

C 今回のツアーで見たいもの、知りたいことは何ですか?

〈ウェブフォームURL〉

http://www.tokyo-zoo.net/event/ueno_museum/2016/

〈締切〉 2016年4月24日(日)必着

〈抽選〉 応募者多数の場合は抽選をおこない、2016年4月30日(土)までに、当選の方にのみ参加証の発送をもってお知らせします。

※当日、取材が入る場合があります。また、職員が記録撮影をおこないますので、ご了承の程お願いいたします。

※個人情報につきましては本事業の参加者募集においてのみ使用し、終了後は速やかに破棄します。

※お問い合わせは上野動物園・教育普及課・教育普及係まで。

03-3828-5171(代表)

「上野の山でトラめぐり」 の内容について

上野動物園

「テーマ:生きたトラの観察」

講師:上野動物園 動物解説員 小泉祐里

～講師からみなさんへのメッセージ～

トラのし模様は、森で狩をするときに景色にまぎれて隠れるため、ということは聞いたことがあるでしょう。その他にもトラの体は狩をするための工夫、暗い夜に活動するための工夫でいっぱい。動物園では、トラの体つきやしぐさをじっくり観察し、野生での暮らしに迫ります。そしてここで見た「生きた本物のトラ」を頭に残して博物館へ行けば、トラの標本や作品が今までとは違って見えてくることでしょう。



国立科学博物館

「テーマ:トラの骨格」

講師:国立科学博物館 動物研究部 川田伸一郎

～講師からみなさんへのメッセージ～

トラは食肉類ネコ科の最大の種です。つまり大きい猫と考えていただければそれほど間違いではありません。今回はトラの骨格をほかのネコ科の種と比較して観察してみましょう。外見では恐ろしいイメージがありますが、骨になってしまえば…やはり恐ろしいですけど、ほかのネコ類との共通点が見つかるはず。きっと「トラはやっぱり猫なんだ」と思っていただけのことと思います。



東京国立博物館

「テーマ:あつまれ!トラのなかまたち」

講師:東京国立博物館 教育講座室 大木優子

～講師からみなさんへのメッセージ～

絵や彫刻になったトラのなかまたちが大集合。トラの作品といってもその姿かたちはさまざまです。たとえばインドや中国など、トラのすむ国々では本物を見ることができたので「リアル」な作品が作れましたが、トラのいなかった日本には、まるでネコみたいなトラ作品も登場します。仏教絵画や浮世絵に登場するトラまで、いろいろ見比べてみましょう。



施設紹介



上野動物園

1882(明治15)年に開園した日本初の動物園。上野の山の緑あふれる東園ではジャイアントパンダ・ホッキョクグマ・アジアゾウ・スマトラトラ・ニシゴリラなど、連で名高い不忍池が広がる西園ではアイアイ・ハシビロコウ・キリン・オカビ・コビ

トカバなど、多様な生物に出会うことができます。また、希少動物の保全にも積極的に貢献しています。

開園時間:9:30~17:00(入園は16:00まで)

休園日:月曜日(月曜日が国民の祝日や振替休日、都民の日の場合はその翌日が休園日)、年末年始

くわしくはホームページをご覧ください:

<http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ueno/>

〒110-8711 東京都台東区上野公園9-83

電話番号:03-3828-5171(代表)



国立科学博物館

1877(明治10)年に創立された、日本で最も歴史のある博物館の一つであり、国立で唯一の総合科学博物館です。自然史および科学技術史に関する研究を行っており、400万点を超える貴重なコレクションを保管しています。調査研究の成果やコレクションなどを活用して展示や学習支援事業をおこなっています。

開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで)

金曜日は9:00~20:00(入館は19:30まで)

休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)、年末年始、

2016/6/21(火)~24(金)(くん蒸のため)

くわしくはホームページをご覧ください:<http://www.kahaku.go.jp/>

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

電話番号:03-5777-8600(ハローダイヤル)



東京国立博物館

1872(明治5)年に創立された日本で最も古い博物館です。日本の総合的な博物館として、日本を中心に広く東洋諸地域の美術品・考古資料などの文化財を「保存」と「公開」により「守り伝える」中心的な役割を担っています。あらゆる活動を通じて、国内外のみなさまへ日本の文化を伝え続けています。

開館時間:9:30~17:00(入館は16:30まで)

休館日:月曜日(ただし月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)、年末年始

くわしくはホームページをご覧ください:<http://www.tnm.jp/>

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

電話番号:03-3822-1111(代表)

●アクセス



上野動物園へ JR上野駅公園口から徒歩5分

国立科学博物館へ JR上野駅公園口から徒歩5分

東京国立博物館へ JR上野駅公園口から徒歩10分

ミニクイズ あの博物館の意外なモノ!?

次の標本や建造物などは、上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館のうち、どの施設にあるでしょう?

Q1 ミイラがあるのはどこ?

Q2 忠犬ハチ公の剥製があるのはどこ?

Q3 五重塔があるのはどこ?

園内種々: 上野動物園 園内種々: 国立科学博物館 園内種々: 東京国立博物館

これまでの「上野の山で動物めぐり」
▶上野の山でライオンめぐり (2007年)

ライオンの足跡↓

上野動物園

展示種:インドライオン(東園)

見どころ・観察のポイント:野生ではわずか300頭しか残っていない、希少なアジアのライオンです。狩りに使う前足を見てみましょう。後ろ足よりも大きく頑丈です。休むときはよく両手のひらを向き合わせるようにしています。手首を回せるので、大きな獲物を抱え込むようにして捕えることができます。(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:地球館3F

大地を駆ける生命/サバンナの哺乳類

見どころ・鑑賞のポイント:地球館3階の「大地を駆ける生命」をご覧ください。ここにはライオンだけでなく様々な捕食者の姿が科博選りすぐりの剥製でご覧いただけます。ライオンはどんな立ち方をしているかな(かかとの位置に注目!)。これも狩りに必要な特徴なんだよ。

(動物研究部 研究主幹 川田伸一郎)



東京国立博物館

トーハクの所蔵品:表慶館 ライオン像など

見どころ・鑑賞のポイント:表慶館(重要文化財)の入り口には大きなライオンが2頭います。青銅(ブロンズ)でつくられた彫刻で、一見すると建物とおなじ洋風の作品です。でもよく見ると、それぞれの口は阿(あ)と呼(うん)の形。そう、これは魔よけの獅子・狛犬の役割ももちあわせている。和洋折衷のユニークなライオン像なのです。(教育講座室)



※表慶館前に設置されています。

表慶館ライオン像(青銅) 大黒氏広・沼田一雄作 明治時代

これまでの「上野の山で動物めぐり」
▶上野の山でゾウめぐり (2008年、2015年)

ゾウの足跡↓

上野動物園

展示種:アジアゾウ(東園)

見どころ・観察のポイント:中に骨がないだけに、鼻はくると自由自在に曲げて動かすことができます。小さな餌をつまんだり、草の束を巻き取ったり、地面に散らばった餌を掃き集めたり…。食べること以外にも、水浴びや砂浴び、周囲の確認、コミュニケーションなど休みなく動く鼻を観察してください。(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:地球館1F

地球の多様な生き物たち/自然を生き抜く工夫 など

見どころ・鑑賞のポイント:地球館1階でアジアゾウの全身骨格を見てみよう。「あれ?これがゾウなの?」と思った方はゾウの本当の姿を良く知っているね。「♪おーはながながいのね」とうたわれる

鼻には実は骨はないのです。おまけに大きな耳にも骨は入ってません。だからこんな姿なんだね。

(動物研究部 研究主幹 川田伸一郎)



東京国立博物館

トーハクの所蔵品:「ガネーシャ坐像」など

見どころ・鑑賞のポイント:インドで生まれた頭がゾウの神様。「ガネーシャ」という名前で、ヒンドゥー教では勉強や芸能の神様として大切にされています。おなかまわりが大きいですが、インドではおなか大きいほうが裕福とされています。(教育講座室)



※東洋館地下1階11室にて展示中。

「ガネーシャ坐像」アンコール時代・12~13世紀

これまでの「上野の山で動物めぐり」
▶上野の山でクマめぐり (2009年、2014年)

ツキノワグマの足跡↓

上野動物園

展示種:ジャイアントパンダ・ツキノワグマ・ホッキョクグマなど(東園)

見どころ・観察のポイント:上野動物園では、全8種のうち5種のクマを見ることができます。大きな鋭い爪はクマの力強さの象徴ですが、その使いみちは、木に登る・地面を掘って餌を探す・アザラシを捕えるなど、種類によって異なります。(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:地球館3F

大地を駆ける生命 など

見どころ・鑑賞のポイント:地球館3階の「大地を駆ける生命」ではホッキョクグマやアメリカグマの剥製をご覧になれます。ホッキョクグマは真っ白いクマで独特ですが、実は日本にいるヒグマ(日本館2階や3階に展示してあります)ととっても近い仲間なんだ。世界にクマは8種だけしかないけど、その姿は様々です。

(動物研究部 研究主幹 川田伸一郎)



東京国立博物館

トーハクの所蔵品:「熊の毛皮で作った刀の鞘の袋」など

見どころ・鑑賞のポイント:勇ましくて強いクマ。その毛は武士に好まれました。特にツキノワグマの真っ黒な毛はとても貴重なため、ヒグマやほかの獣の毛を黒く染めた武器も作られました。大陸から輸入したヤクの毛も白、黒、赤と染められ「白熊毛」「黒熊毛」「赤熊毛」と呼ばれました。(教育講座室)



※2014年のクマめぐりでは展示されましたが、現在展示予定はありません。

「熊の毛皮で作った刀の鞘の袋」江戸時代・19世紀

これまでの「上野の山で動物めぐり」
▶上野の山でツルめぐり (2010年)

タンチョウの足跡↓

上野動物園

展示種:タンチョウ、オグロヅル、ホオカザリヅル(東園)

見どころ・観察のポイント:湿原でくらす鳥です。長い足とくちばしは、水の中を歩きまわって餌を探るのに役立ちます。水中だけでなく地面を掘って虫などを探すことも多く、動物園でもよく見られます。力強く掘る様子は、まさに「ツルハシ」です。

(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:地球館 1 F
地球の多様な生き物たち／
系統広場 など

見どころ・鑑賞のポイント:ツルは枝がつかめなくて木には止まれません。足の第一指(親指)が短いからです。尾が黒く見えるのは、実は尾羽ではなく、翼の風切羽です。赤い頭は羽の色ではなく皮膚の色です。こういったことも剥製をよく見るとわかるかな?(動物研究部 研究主幹 西海功)



東京国立博物館

トーハクの所蔵品:「松竹梅鶴亀鏡」など

見どころ・鑑賞のポイント:「鶴は万年、亀は千年」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。ツルは日本では昔から長寿のシンボル、めでたい鳥と考えられてきました。鏡のなかだけでなく、着物や焼きものなどの文様に使われているツルもいます。きょうは何羽見つけるかな?(教育講座室)



「松竹梅鶴亀鏡」江戸時代・17世紀

※2016年4月19日～7月3日、本館13室にて展示予定。

これまでの「上野の山で動物めぐり」
▶上野の山でネズミめぐり (2011年)

ネズミの足跡↓

上野動物園

展示種:ヒメネズミ、アカネズミ、ハタネズミ(西園・小獣館)

見どころ・観察のポイント:木に登るヒメネズミは長い尾、地面を駆けるアカネズミは大きな足、トンネル生活のハタネズミは小さな耳に短い尾。体が小さいからこそ生活空間にパリエーションがあり、それに応じた体つきがあるのです。

(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:日本館 2F、3F など

見どころ・鑑賞のポイント:日本館2階と3階にはいくつかの種の「野ネズミ」が展示されています。ネズミって人にとって迷惑な生き物だと思ってませんか?そんなことはありません。これらのネズミは日本に固有の種がほとんどで、いくつかは絶滅の危機にあります。ネズミといえども、我が国の貴重な野生動物の一部なのです。

(動物研究部 研究主幹 川田伸一郎)



東京国立博物館

トーハクの所蔵品:「鼠草紙」など

見どころ・鑑賞のポイント:ネズミは人間にも身近な動物であっただけに絵巻の主人公にもなりました。「鼠草紙」には、ネズミが人間の美しい姫君と結婚して子孫を畜生道から救おうとするも、結局はネズミだとばれてしまい、失意のうちに出家する物語が描き出されています。(教育講座室)



「鼠草紙」(部分)江戸時代・18世紀

※2016年6月28日～8月7日、本館3室にて展示予定。

これまでの「上野の山で動物めぐり」
▶上野の山でキリンめぐり (2012年)

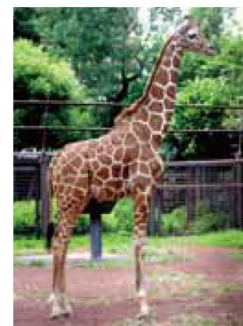
キリンの足跡↓

上野動物園

展示種:アミメキリン(西園)

見どころ・観察のポイント:独特の茶色と白の網目もようは、木の近くでは枝葉に溶け込んで姿を隠すのに役立ちます。また長い首・肢に加えて長い舌もお見逃しなく。届かないところにある木の葉を引き寄せて食べる便利な道具です。

(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:地球館 1 F
地球の多様な生き物たち／
自然を生き抜く工夫

見どころ・鑑賞のポイント:地球館1階にキリンの全身骨格が展示されています。キリンは首が長い動物として知られていますが、実はキリンの長身には「肢が長い」という特徴があることも忘れてはいけません。キリンの長い首には骨はいくつあるのだろうか?長い肢といっても僕たちのどの部分が長くなっているのだろうか?ぜひ解答を見つけ出してください。

(動物研究部 研究主幹 川田伸一郎)



東京国立博物館

トーハクの所蔵品:「麒麟水滴」など

見どころ・鑑賞のポイント:トーハクで出会う「きりん」は、シカのような頭でウシのような尻をした不思議な姿です。これは動物園にいるキリンとは別物で、古く中国に伝わる想像上の生き物を麒麟(きりん)といいました。特別な力を持つと考えられていた想像上の生き物といえば、龍も有名ですね。

(教育講座室)



「麒麟水滴」江戸時代・18～19世紀

※2016年1月2日～4月17日、本館13室にて展示予定。

これまでの「上野の山で動物めぐり」

▶上野の山でサルめぐり (2013年)

上野動物園

展示種:ニホンザル、ニシゴリラ(東園)、フオキツネザル(西園)など

見どころ・鑑賞のポイント:見てすぐに分かるサルの仲間の共通点は、①木の枝を握れる手足のかたちと、②目が発達していること。どのサルも、仲間の様子や周りの様子を目でしっかりと見ています。私たちヒトも同じですね。(動物解説員 小泉祐里)



国立科学博物館

常設展示:地球館3階
大地を駆ける生命 など

見どころ・鑑賞のポイント:地球館3階の少し目立たない場所にサルの仲間(霊長類)を展示している場所があります。サルといっても、キツネのようなものから僕たちにそっくり(?)なチンパンジーまで多様です。彼らの進化の歴史をたどることは僕たちの過去を知ることもつながります。地球館の地下2階にはもっと僕たちに近い仲間たちも展示されているよ。
(動物研究部 研究主幹 川田伸一郎)



東京国立博物館

トールハクの所蔵品:「ハヌマーン立像」など

見どころ・鑑賞のポイント:これは神様になったサルです。このサルの名前は「ハヌマーン」。ハヌマーンはインド神話にでてくる猿族で、風の神様の化身といわれています。正面からはわかりませんが、体のラインがとてもきれいな曲線になっています。しつぽのかたちもユニークです。(教育講座室)



※東洋館地下1階12室にて展示中。

「ハヌマーン立像」アンコール時代・11世紀